

令和7年度 「ビジネス基礎（a）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選 択	2	前期	普通科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
ビジネス基礎(実教出版)		ビジネス基礎 学習書(NHK 出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
7 (水1)	4	前期 1 回	前期 4 回	

○ 「ビジネス基礎(a)」の学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 学習内容の概要

- ・ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ・ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ・ビジネスを適切に展開する力の工場を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 商業科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

スクーリングではレポートの課題を中心に講義するが、その他、教科書・学習書の練習問題に積極的に取り組むことによってビジネスの知識や技術の習得に努めて欲しい。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	商業の学習とビジネス	私たちの社会とビジネス 社会を支えるビジネス 社会の課題とビジネス	レポート第1回
2	5	25	日	ビジネスとコミュニケーション	ビジネスマナーの重要性 基本的なビジネスマナー 場面に応じたビジネスマナー	レポート第1回
3	6	8	日	経済と流通の基礎 さまざまなビジネス	経済の仕組みとビジネス 経済活動と流通 ビジネスの種類	レポート第2回
4	6	22	日	さまざまなビジネス	ものやサービスを生産するビジネス 小売業・卸売業・流通業	レポート第2回
5	7	9	水	さまざまなビジネス 企業活動の基礎	金融業・情報通信業 ビジネスと企業 マーケティングの重要性 資金調達・雇用・税	レポート第3回
6	7	20	日	ビジネスと売買取引	売買取引の手順 代金決済	レポート第4回
7	8	24	日	ビジネス計算 身近な地域のビジネス	ビジネス計算	レポート第4回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	8	27	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート 第1回～第4回の内容より出題

○ レポートについて

- ・レポートは教科書や学習書を参考にすることで、ほとんど作成できます。
- ・空欄があるなどの不備なものや、未完成なレポートは再提出になります。
- ・できる限りスクーリングに出席し、分からないところや疑問は質問して解決を図るよう努力しましょう。なお、スクーリングで逐次レポートの解説をします。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「ビジネス基礎（b）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選 択	2	後期	普 通 科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
ビジネス基礎(実教出版)			ビジネス基礎 学習書(NHK 出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
7 (水1)	4	後期 1 回	後期 4 回	

○ 「ビジネス基礎(b)」の学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 学習内容の概要

・ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

・ビジネスに関する課題を発見し、無事ネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

・ビジネスを適切に展開する力の工場を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 商業科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

スクーリングではレポートの課題を中心に講義するが、その他、教科書・学習書の練習問題に積極的に取り組むことによってビジネスの知識や技術の習得に努めて欲しい。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	12	日	商業の学習とビジネス	私たちの社会とビジネス 社会を支えるビジネス 社会の課題とビジネス	レポート第1回
2	10	26	日	ビジネスとコミュニケーション	ビジネスマナーの重要性 基本的なビジネスマナー 場面に応じたビジネスマナー	レポート第1回
3	11	9	水	経済と流通の基礎 さまざまなビジネス	経済の仕組みとビジネス 経済活動と流通 ビジネスの種類	レポート第2回
4	11	30	日	さまざまなビジネス	ものやサービスを生産するビジネス 小売業・卸売業・流通業	レポート第2回
5	12	14	日	さまざまなビジネス 企業活動の基礎	金融業・情報通信業 ビジネスと企業 マーケティングの重要性 資金調達・雇用・税	レポート第3回
6	12	21	日	ビジネスと売買取引	売買取引の手順 代金決済	レポート第4回
7	1	11	日	ビジネス計算 身近な地域のビジネス	ビジネス計算	レポート第4回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日⑤	1	10	29	水
締切日⑥	2	11	26	水
締切日⑦	3	12	24	水
締切日⑧	4	1	21	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート 第1回～第4回の内容より出題

○ レポートについて

- ・レポートは教科書や学習書を参考にすることで、ほとんど作成できます。
- ・空欄があるなどの不備なものや、未完成なレポートは再提出になります。
- ・できる限りスクーリングに出席し、分からないところや疑問は質問して解決を図るよう努力しましょう。なお、スクーリングで逐次レポートの解説をします。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。